

2 エドワード・グレイ

向こうの町のエマ・モアランドが
ぶらぶら歩いていたぼくに会って 訊いてきた
「エドワード あんた振られたの
それとも 結婚したの」

エマ・モアランドから話しかけられて 5
ぼくは 大泣きしながら顔をそむけた
「エマ・モアランドよ 愛の女神が
このエドワード様の心を動かすことなど もう無いさ

「エレン・アデアは心からぼくを愛していたんだ
親父さんやお袋さんの反対を押し切ってさ 10
今日ぼくは 風吹く丘のエレンの墓で
一時間 座って泣いていた

「内気なだけだったエレンを 冷たい女だと誤解し
馬鹿にされてると思ったぼくは 海の向こうに逃げ出した
エレンがぼくを想って死にかけていた時に 15
ぼくの心は 愚かにもエレンへの恨みでいっぱいだった

「むごくてひどい言葉を吐きまくっていた
今日 それこそくわが身にお返しだ
『このエドワード様の心を引っ掻き回して
いい加減な気まぐれ女』とぼくは喚いていたんだ 20

「墓場でぼくは 草むらに顔をうずめて
つぶやいた 『この絶望的な気持ちを聞いてほしい
今までのことすべてを謝りたい
エレン ひと言でもいいからしゃべってくれ』

「それからぼくは 身を横たえたまま 25
蠟石で 苔むした墓石に書いたんだ
『エレン・アデアの身体と
エドワード・グレイの心 ここに眠る』と

「愛は訪れ 愛は去り行く

樹から樹へと飛び渡る鳥のように

30

でもぼくが誰かを愛することは もう決していない

エレン・アデアがぼくのところに戻るまで

「墓石に身を投げ出して ぼくは大泣きした

大泣きしながら 墓から離れた

エレン・アデアの^{からだ}身体と

35

エドワード・グレイの心が あそこに眠っているんだ」

(山中光義訳)